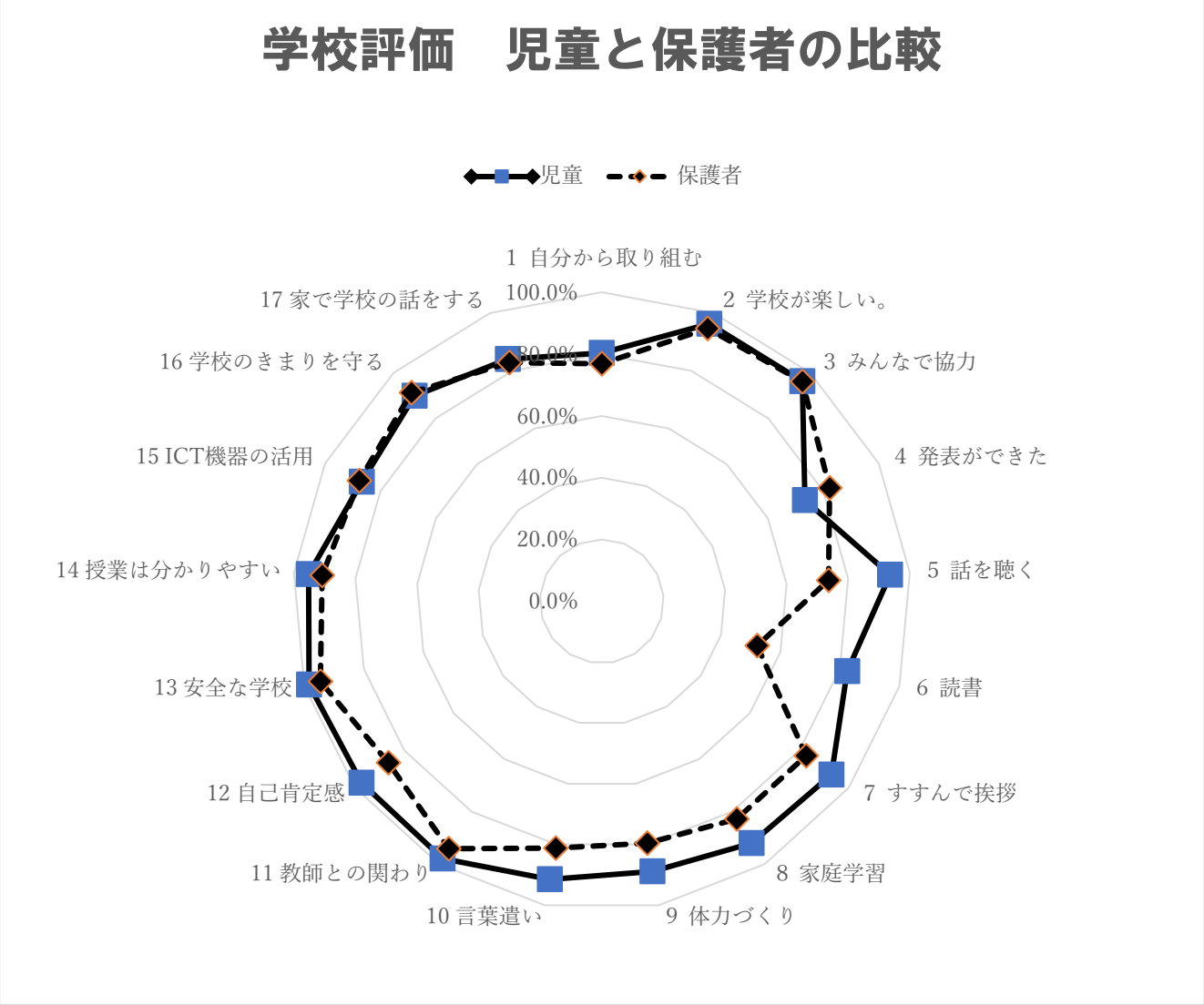
富士市立神戸小学校
学校だより臨時号
令和４年２月 24 日

燃える神戸っ子

学校教育目標
「じぶんから」
令和３年度重点目標
「あいさついっぱい　やさしさいっぱい」

後期学校評価アンケートの結果の報告

後期学校評価アンケートへのご協力ありがとうございました。保護者の皆様からたくさんのご意見や、私たち教職員への励ましのお言葉をいただきました。皆様の思いをしっかり心に刻み、今後の教育活動をさらに充実させていきたいと思います。



上のグラフは、後期の学校評価アンケートで、「そう思う」「だいたいそう思う」の数値を合計したものです。実線は児童、点線は保護者を表しています。アンケートからは、児童が楽しく学校生活を送ることができているということが分かります。一方、項目 1,4 などは、他の項目に比べて低くなっており、主体性や自己表現に課題があると分かります。

児童の評価では、「11 教師との関わり」「12 自己肯定感」「13 安全な学校」の項目が特に高い数値を示しています。これらの結果から、教師と子供が良好な関係を保てていること、また、思いを大切にし努力を認める中で子供が自信を深めていることが分かります。

一方、自己表現の１つである「4 発表ができた」では、自分の考えを言葉で表現することについて約３割の児童が満足していないという結果が出ています。3 密を回避するために、自由に自己表現することが難しくなっていますが、今後も子供たちがより「言いたい！」と思える授業や活動を工夫していきたいと思います。

また、「1 自分から取組む」の結果から、本校の児童が主体的に活動することが苦手なのが分かります。今年度から子供たちの主体性を伸ばすために、学校教育委目標を「じぶんから」とし、様々な働きかけをして主体的に活動することができるようにしてきましたが、まだまだ不十分なことが分かります。令和 4 年度に向けて、更に主体的に活動する場を設定するなど、工夫をしていきたいと思います。

「6 読書」については、3 密を回避するために図書室の利用時間に制限があったり、読み聞かせを中止したりとまだ制約があります。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、様々な制限を受け読書量の減少傾向も見られますが、図書委員会や学校司書の働き掛けをとおして、引き続き読書を推奨していきたいと思います。

「15 ICT 機器の活用」の数値をみると、ICT 機器を用いた授業が浸透してきたことが分かります。機器の活用に慣れ、前期以上に機器を活用できるようになっています。 授業中分からないことを調べたり、ロイロノートに自分の考えを打ち込んだりと有効な活用場面も多くみられます。一方、使い方に慣れてきた半面、問題も見られるようになってきました。各クラスで使用のルールを話し合いました。再度適切な使い方を確認していきたいと思います。ご家庭でも、今一度、約束事などの確認をお願いします。

【２　学校の数値目標から　】

児童の評価 / 項目	できている	まあできている	合計	グランドデザイン目標値
学校生活が楽しい	80.9%	15.4%	95.4%	90%
みんなで協力	86.2%	10.1%	96.2%	90%
すすんで挨拶	68.1%	25.0%	93.1%	90%
きまりを守る	56.4%	33.5%	89.9%	85%
意見を発表	41.0%	32.4%	73.4%	70%
話しを聞く	59.6%	34.0%	93.6%	90%
読書を楽しむ	50.0%	32.4%	82.4%	80%
家庭学習をする	62.8%	29.3%	92.1%	85%
授業は分かりやすい	72.9%	22.3%	95.2%	90%
目標を持って頑張る	34.6%	45.7%	80.3%	85%

どの項目も、今年度当初に学校が設定した学校の数値目標を上回っています。ご家庭や地域の皆様のご協力のおかげだと思います。

「すすんで挨拶」の項目では、素直で優しい神戸地区の子供たちの挨拶をさらに伸ばしていくために、児童会を中心におこなってきた「あいさつマウンテン」の成果が表れています。

一方で、前期からの課題である「地域の方への挨拶があまりできない」のご指摘もいただきます。今後も校内だけでなく、いろいろな場面で、場に応じた挨拶ができるようになってほしいと思います。

また、「目標を持って頑張る」の運動面では、3 密を避けるための集団活動にまだ制限があり、体育の授業等、体を動かす機会が減ったため目標値は達成されませんでした。さらに、子供たちの体力の低下を感じます。体育の授業だけでなく、校内行事や休み時間の遊びなどの機会を生かして子供たちの体力の向上に取り組んでいきたいと思います。

【3　前期・後期の結果比較　】

（数値は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた数です）

項　　目	児童			保護者		
	前期（%）	後期（%）		前期（%）	後期（%）	
1　自分から取り組む	81.6%	80.3%	↓	79.8%	76.9%	↓
2　学校が楽しい。	92.6%	96.3%	↑	96.9%	94.6%	↓
3　みんなで協力	94.7%	96.3%	↑	96.4%	96.2%	↓
4　発表ができた	71.6%	73.4%	↑	79.3%	82.3%	↑
5　話を聴く	93.2%	93.6%	↑	73.1%	73.7%	↑
6　読書	84.2%	82.4%	↓	53.4%	52.2%	↓
7　すすんで挨拶	90.5%	93.1%	↑	81.9%	82.8%	↑
8　家庭学習	90.5%	92.0%	↑	89.1%	82.8%	↓
9　体力づくり	85.8%	88.8%	↑	81.3%	79.6%	↓
10　言葉遣い	88.4%	91.5%	↑	80.8%	81.2%	↑
11　教師との関わり	93.7%	97.9%	↑	93.8%	94.1%	↑
12　自己肯定感	90.5%	97.3%	↑	84.5%	86.6%	↑
13　安全な学校	92.6%	98.4%	↑	92.2%	94.6%	↑
14　授業は分かりやすい	92.6%	95.2%	↑	90.7%	90.9%	↑
15 ICT 機器の活用	82.1%	86.7%	↑	91.2%	87.6%	↓
16　学校のきまりを守る	90.0%	89.9%	↓	94.3%	91.4%	↓
17　家で学校の話をする	89.5%	84.0%	↓	93.8%	82.8%	↓

前期と後期の結果を比較してみました。多くの項目で、前期よりも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が増えています。

しかし、1,2,6,8,9,15,16,17 では、割合が下がっています。1,2,6 では、3 密を回避するために様々な制限があります。その中で工夫をして、子供の活動を充実させていかなければいけないと思います。

また、8,9,15,17 では、学校と家庭の情報共有が必要だと感じます。効果的な情報発信の方法を検討していきたいと思います。

【4　保護者の皆様の意見から（抜粋）　】

学校生活

・現在、とてもよい素直な子供たちなので、そのまま続いてほしいです。

・多くの子供たちは素直で明るく友達思いだと思いますし、息子の話からもそれが伝わってきます。とげとげした言葉遣いはしないように学校でも指導してくれていますが、もっとその重要さがその子たちにも伝わってくれるといいです。

・人数が少ないため、この子はこれができる。など決めつけてしまい、頑張れるのにあきらめてしまう気がします。もっと皆で切磋琢磨し個の成長を少しでも増やしたい。

アンケート結果の全体をみても、ほとんどの項目で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると 80%を越えていることから、児童たちが、学校生活に満足していることがうかがえます。しかし、何らかの不満を抱えている児童もいると思います。1 人 1 人に寄り添い、安心して生活できる学校づくりに励んでいきたいと思います。

児童や教師の関わり

・担任の先生の目が行き届いているのは、今のクラスの人数が 20 人弱だから、先生とのコミュニケーションも取れているからだと思います。おかげで安心して学校に送り出すことができます。

・いろいろと制限のある中で、学校生活を何事もなく送れていることに感謝しています。感染症が落ち着いたらですが、小規模校の良さを生かした多学年の活動や学習の場が増え、いつもとは違う友達と接する機会があるとありがたいです。

年に 3 回「いじめアンケート」を行い、個別に教育相談を行っています。アンケートだけでなく、児童の日常生活の様子から、気付いたところなども話題にしています。これからもより一層信頼関係を深めていけるよう、児童、一人一人の言動の背景に思いを馳せ、寄り添う支援を心掛けていきます。

学習について

・生活面より学習面が心配です。中学に上がっていきなりたくさんの量を自分で進めなくてはいけない状況になるので、子供自身がそこについていくのに必死になりそうです。子供の性格や能力にもよると思いますが、親がチェックする癖があると中学に上がってもそれが続きます。高学年には自分で計画し、ある程度自覚をもって進めていけるように進めてほしいです。

・高学年になるにつれて、GODO ノートをもっと使って学習したり調べて行ったり、疑問に思うことをタブレットで解決していってほしいが、追究及したり疑問に思うことが少なく、このまま中学に行っても大丈夫なのか？という心配が残る。

児童たちがより分かる授業ができるように、教師も研鑽をしていきたいと思います。また、よい児童の現れを大切にして、全体に広めることができるように工夫をしていきたいと思います。

また、もう一度、「家庭学習のしかた」を基にして、学習のしかたを確認していきます。

児童の様子から

・地域の友達や他学校、中学生など・・・学校だけでなく様々な人たちとの触れ合いや関りを持てると世界が広がっていくと思います。（今は、コロナで難しいとは思いますが）

コロナ禍の中、児童たちの生活もいろいろと制限されてきました。感染状況を注視しながら、感染予防対策をしっかりとして、児童たちにとって有意義な活動を工夫していきたいと思います。来年度は、さらに GODO ノートを活用していきます。

児童の言葉から

・学校生活がとても楽しいです。授業でいろいろなことを発表したいです。「じぶんから」を頑張りたいです。

・学校がめっちゃ楽しいです。

たくさんの貴重なご意見をありがとうございました。

いただいたご意見を参考にし、来年度も教職員一同、子供たちが「じぶんから」学び、よりよい学校生活を送ることができるよう、精一杯支援してまいります。今後も、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。